

【Part3】若王子山(2) 若王子山山上から幻想的な駒ヶ滝の行場を通って南禅寺へ下る

◆ 若王子山山上から駒ヶ滝を経て南禅寺へ 2019.10.9.





若王子山山上からなたらかな山腹を東側に回り込みながら、
南に下って南禅寺界限へ。初めての道ですが、しっかりした道なので心配は
ない。但し 集中豪雨の痕跡 倒木が道のあちこちに。 2019.10.9.

A photograph of a dirt path winding through a dense forest. The path is covered in fallen leaves and branches, and is flanked by tall trees with thick trunks. Sunlight filters through the canopy, creating dappled light on the ground. The overall atmosphere is serene and natural.

なたらかな山腹を東側から南側に回り込んで谷筋を下って行く。
2019.10.9.

A photograph of a forest path. In the foreground, a wide, shallow stream bed is visible, covered with dry leaves and some green ferns. The path leads into a dense forest of tall, thin trees with green foliage. The lighting is bright, suggesting a sunny day. The overall scene is a natural, wooded area.

なたらかな山腹を東側から南側に回り込んで、谷筋を下って行く。
2019.10.9.



この谷筋を登ってくる人に初めて出会い、この道を下れば南禅寺
琵琶湖疎水水路閣の横に下って行くと教えてもらう。

2019.10.9.



狭い谷筋を抜け、正面が明るくなってきた。何組も外人たちが登ってくるのに出会う。南禅寺最勝院駒ヶ滝の行場のすぐ上。
静寂に包まれたパワースポットの雰囲気が漂っている。 2019.10.9.

新島裏の墓
同志社共同
墓地

若王子山

現在地駒の滝の上周辺★

駒ヶ滝
行場

若王子
神社

若王子橋

南禅寺
曇勝院


南禅寺

疎水水路閣



周囲がパッと明るくなって崖の上
左手谷に苔むした大きな岩が直立し、この岩に沿って下る狭い谷筋道と
崖の上をまわりこんで谷へ下りてゆく道ゆく道との分岐。
谷道を降りた後でわかったのですが、この崖上の道が駒ヶ滝の落ち口でした





苔むした大きな岩が直立し、この岩を下へ回り込み下へ降りてゆく。
この大きな岩回り込むと反対側の面の中ほど窟屋があり、
大日如来と将軍地藏菩薩が祀られていました。
この崖上を左へそのまま進むと駒ヶ滝の落ち口を経て、谷筋道と下で合流できる。

當寺の由来

此処より奥駒ヶ滝最勝院一帯の山峡は古く鎌倉時代より「神仙佳境」と呼ばれ、最勝院の案内板に書かれています。知りませんでした。昔からのホットスポット。

道智大僧正の靈地として、広く世間に知られて、いまも駒道智大僧正は、今を距る七百数十年前、比叡山に登り、仙道修行の道に入られ、天台密教の深奥を極めた人であり、後三井寺の長更（管長）となり、更に当時天台密教の寺であつた禅林寺の住持に移られました。晩年世をいたし、この駒ヶ滝最勝院の地に秘蔵の法力により、白馬にまたがり、生身を天空にかくされ、たゞと伝えられています。それ以来、駒ヶ滝（これより奥約二〇〇米）僧正を駒大僧正といひ、又院号をとつて僧正をまつる寺を最勝院と呼ぶことになりました。

鎌倉時代末、文永年間、龜山天皇が此の下に離宮を建てられ、更に離宮を革めて、禅寺を創建して、まづ駒ヶ滝の基を開かれ、僧正は護法神として、南禅寺の基を開かれ、僧正は護法神として、崇敬はもとより、広く京都の人々の信仰の中心となり、古來勝運の神として、参詣者が跡を絶ちません。

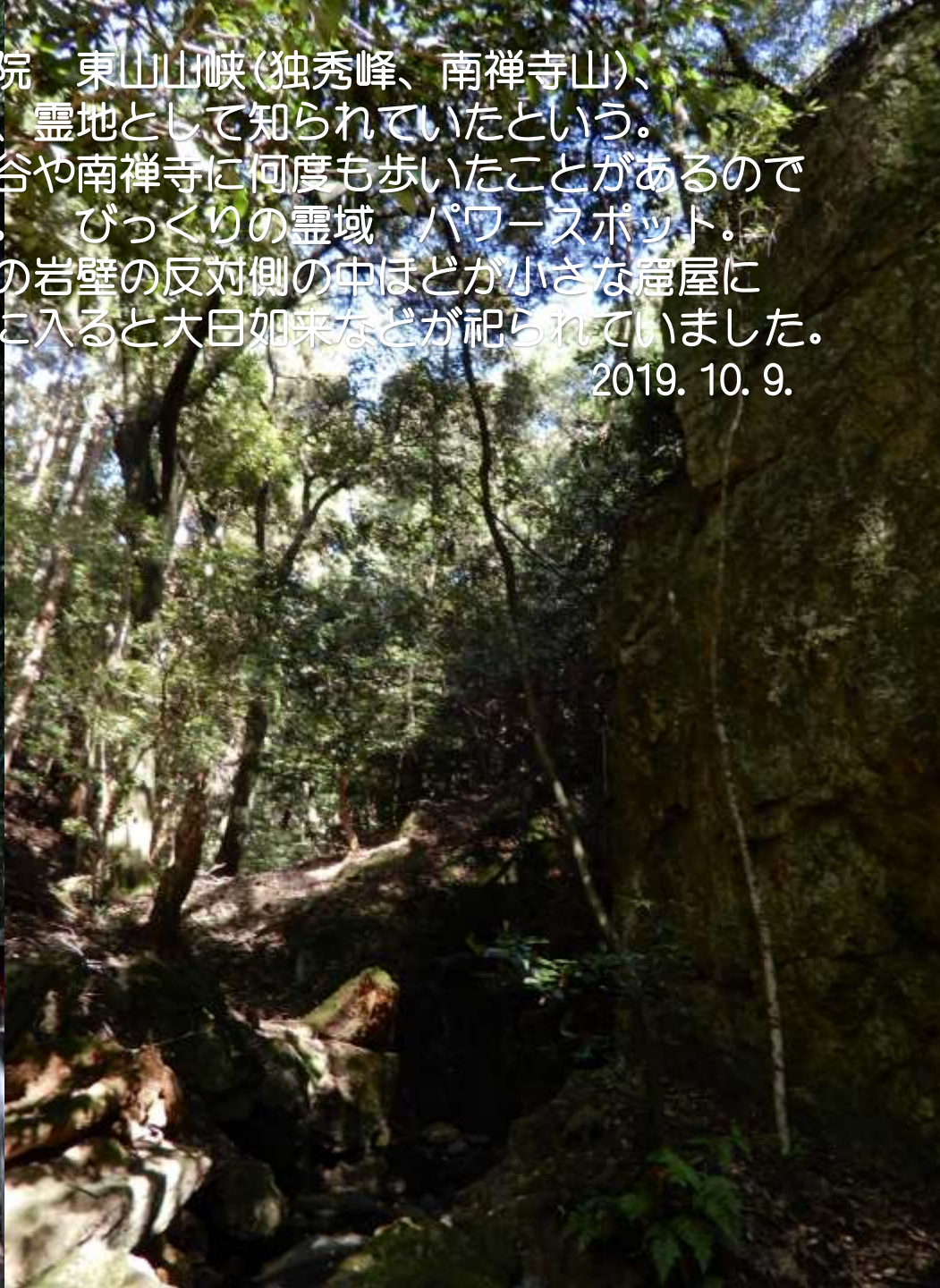
当寺は即ち駒大僧正をまつた本堂であり、駒ヶ滝はその奥の院であります。明治の末年迄は、この下の南禅寺寺務所の地にあり、最勝院般若殿と呼ばれていました。大正六年、夢窓国師の塔所上生院の故地である現在の地に移転したのであります。


駒ヶ龍本堂最勝院

山から下りてきたので逆になりますが、この駒ヶ滝周辺は南禅寺最勝院の奥の院の中にあり、鎌倉時代より「神仙佳境」と呼ばれ、靈地として知られていたと下の最勝院の案内板に書かれています。知りませんでした。昔からのホットスポット。

この辺りは南禅寺最勝院の寺域奥の院 東山山峡(独秀峰、南禅寺山)、
鎌倉時代より「神仙佳境」と呼ばれ、霊地として知られていたという。
大文字山や大文字火床から南の鹿ヶ谷や南禅寺に何度も歩いたことがあるので
すが、この周辺には全く記憶がない。 びっくりの霊域 パワースポット。
直立した岩壁の下をまわりこむとこの岩壁の反対側の中ほどが小さな窟屋に
なっていて、階段を登って暗い窟屋に入ると大日如来などが祀られていました。

2019. 10. 9.





苔むした大きな岩が直立し、この岩を下へ回り込み下へ降りてゆく。
この大きな岩回り込むと反対側の面の中ほど窟屋があり、大日如来と
將軍地蔵菩薩が祀られていました。




垂直の岩壁をまわりこんだ駒の滝谷筋の小さな窟屋の前


2019. 10. 9.



垂直の岩壁をまわりこんだ駒の滝谷筋の小さな窟屋の前
階段をむ登って暗い窟屋の中へ 2019. 10. 9.



奥には暗くてよく見えませんが、大日如来が祀られ、
手前右側には 身に甲冑をつけた戦勝の地蔵菩薩。
鎌倉時代以後、武家の間で信仰されたといい、
この南禅寺最勝院奥の院 駒ヶ滝の行場が開かれた
鎌倉時代との結びつきがうかがえる。




窟屋の前から階段道を谷へ下りる。 2019. 10. 9.
橋のところから谷を渡らずに右にたどると正面に糸を垂らした
ごとく駒ヶ滝。駒の滝の行場がみえる。
また、橋を渡ると谷の向こう側 駒ヶ滝の前に最勝院奥の院
祭事場と駒大僧正を奉る小さな祠が建っている。
霧田気ともども まさにパワースポットの中心分部



窟屋からの階段を下りて、駒の滝行場の前に


2019. 10. 9



日陰になってよく見えないが正面 中央真上から駒の滝が流れ落ちる
駒ヶ滝の行場 2019. 10. 9。
最近では滝にうたれる人も少なくなったが、今も続く行場



日陰になってよく見えないが正面に駒の滝が流れ落ちる
駒ヶ滝の行場 2019. 10. 9

A photograph of a natural hot spring area. The scene is dominated by large, moss-covered rocks and dense green foliage. A wooden walkway with a metal railing leads up a slope. In the foreground, there are several stone structures, possibly part of a traditional hot spring bath or a shrine. The lighting is bright, creating strong highlights and deep shadows.

行場の中心部に入るのは本当に久しぶり
最近のパワースポットというと自然の樹木や石に靈力を求める場合が多い
が、古くから続く周りの自然と一体となった行場の雰囲気惹かれます。
そんな日本の自然の中に、外人が多く惹かれてる・・・
日本人ももっとそんな自然に目をむけてもいいのでは・・・と



行場前の橋からながめる駒ヶ滝全景 2019. 10. 9.
暗くてよく見えなかった行場がよくわかるのですが、
中央の駒の滝は明るすぎてよく見えず。

A photograph of a forest path leading to a shrine building. The path is made of stone steps and is surrounded by dense green foliage and trees. The shrine building is visible in the distance, partially obscured by the trees. The scene is brightly lit, suggesting a sunny day.

橋まで戻って 谷の向こう奥の院を通過して南禅寺へ 2019. 10. 9.



南禅寺 最勝院 奥の院 2019. 10. 9.
この祭事場の正面奥に駒大僧正を奉る祠があり、
さらに奥が駒ヶ滝 2019. 10. 9.



最勝院奥の院から南禅寺へ



最勝院の境内を南禅寺へ下る 2019. 10. 9.



遠く京都の市街地・愛宕山も遠望 緑に包まれた参道をくだり、最勝院の本堂横。
もうすぐそこが南禅寺の境内。琵琶湖疎水の流れる水路閣。 雑踏の中へ



南禅寺の塔頭最勝院の本堂

2019.10.9.



駒ヶ瀨最勝院

定免の御墓
此の墓は、定免公の御墓なり。公は、徳川幕府の御旗本にして、忠節の著るる御方なり。公の御墓は、此の如く、石に刻み置かれ、其の傍に、御墓の由縁を記す。公の御墓は、此の如く、石に刻み置かれ、其の傍に、御墓の由縁を記す。





最勝院のすぐ下 多くの人が行き来する見慣れた南禅寺の境内への道
すぐ前に琵琶湖疎水の水路 水路閣の端部が見える 2019.10.9.

多分はじめてだろう 記憶にない若王子山からの南禅寺への山道
新島襄の墓に出会え、幻想的な隠れスポット 駒ヶ滝の行場にも出会えうれしい。
手短に歩けるwalking ルート。山が紅葉したら再度歩こうと。
今日は栗田口の鍛冶伝承の痕跡を訪ねるので、
蹴上に行かずそのまま水路閣から南禅寺境内を抜けて栗田口へ 2019. 10. 9.



南禅寺の境内 琵琶湖疎水の水路 水路閣 2019.10.9.





小方丈庭園



南禅寺 方丈庭園を見るのも久しぶり 2019.10.9.



南禅寺 南大門から今歩いてきた東山を眺める 2019.10.9.





琵琶湖疎水 蹴上インクライン 2019.10.9

南禅寺からまっすぐ坂道を下ると琵琶湖疎水のインクラインをくぐる橋の上
北側に鴨川に続く琵琶湖疎水の船着き場が見える

反対側は蹴上へ登るインクライン 蹴上から琵琶湖疎水の山科運河に入って
琵琶湖へ出る。 また この琵琶湖疎水の水を使った水力発電所を使って
日本で初めて京都で市電が走った。